

BEAUTIES



1. [本文1](#)

こんな人が作っているよ

二十代の頃から 小説を書いていた。成功すると思っていた。才能があると思っていた。運があると思っていた。

しかし 現実はずべてだめだった。しかし いつか成功すると思っていた。そのために映画なんかを見ることを将来のためと思っていた。夜の映画館の最終回を見て家に帰った。

すべて安易に考えていた。

そして現実はずべて金もなく 成功もなかった。女もいなかった。

そして 小説がだめなら漫画と 漫画がだめなら絵画と夢のようなことばかり考えていた。

そして状況はどんどんと困窮をきわめていった。

ぴっかりくん ぴっかりちゃんを始める前は

違う写真を撮っていたよ。

1993年頃に 何か 変わったことを やろうと思って

ベニヤ板に油絵の具で絵を描いて

主にヌードだったけど それを外の風景に

置いて写真を撮ることを始めたよ。

ヌード写真集を買って来て

それを参考にして 人物のところだけ 抜き出して

顔も好みのタイプにして 絵を描いたんだ。

絵の方で 全然 収入もえられなかったし、

賞にも入選しなかったからだよ。

ベニヤ板を最初は たがねみたいなもので

切っていたけど

あとで ジグソーで切るようになったよ。

相当 必死だったよ。

だいたい高さが100センチぐらいのものが

多かったよ。

日の出埠頭の方に よく 行ったよ。

これは 税関のあるそばの倉庫街だよ。

ダルビッシュたら子の漫画

たまに 警官から職務質問を受けたよ。

ダルビッシュたら子の漫画

これは***埠頭で撮った 写真だよ。

海の向こう側に見えるのが

建設中のフジテレビだよ。

ちょうど風邪が吹いて来て 看板が

倒れるところだよ。

看板が倒れることは よくあったよ。

カメラも倒れることが数度あったよ。

プラスチックボディにひびが入ったよ。

最初に買ったのが キヤノンの

EOS100QDという ボディに

シグマの標準ズームをつけたものだよ。

新品を買ったよ。

今から 考えると 信じられないよ。

フィルムカメラは新品を買わないからね。

写真家になったら と 夢想しながら

写真を撮っていたよ。

これは佃島の方にある工場街で

撮影したものだよ。

たくさん 撮影ポイントがあったよ。

それから開発が進んで

雰囲気のある場所がだんだん

減っていったよ。

夢 破れて・・・

たら子は 1992年頃には 最低 どんぞこの状態になりました。

何の根拠もない夢を追い続けた たら子は

1992年頃には どんづまりの状態に なっていたんだよ。

たら子は 最初 小説家になろうとしました。

成功して 世間にもてはやされる 夢を見ていたのですが

現実には 懸賞小説に応募しても落選ばかり

持ち込みをしても ぼろくそに言われるばかり

しかし 変な自信をもっていて

いつか 世間の脚光を浴びると思いこんでいたんだよ。

しかし 現実には 違って いたんだ。

そんな中で ある大金持ちと知り合いになったんだよ。

こんな大金持ちなら

少しは経済的援助をしてくれるのではないかと思い

この大金持ちの一家が出てくる私的な漫画を描き始めたんだよ。

その大金持ちの油絵なんかも描いたよ。

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

でも それも芳しくなく

家族には そのうち成功すると

いいわけをしながら ずるずると明日もない生活を続けていたんだ。

しかし とうとう どんづまり状態になったんだ。

家族からは そら見たことかと 言われたよ。

何か 家族は すごく

うれしそうで

上から目線だったんだにややや

説教はされなかったけど

これからは 大きなことは言わずに つましく生きていけと

言われたよ。

この年になって考えてみると

これは天罰かもしれないと思ったよ。

夢なんて 格好いい言葉だったけど

結局は 親が犠牲になっていたかも知れなかったんだな。

金持ちの家ならいいけど どっちかと言えば貧乏だった たら子の家は

親に負担がかかっていたんだな。

今から思えば冷や汗ものだよ。

木下啓介の映画で

ふたりで歩んだ幾春秋

という映画を最近見たけど

心情的にぴったりだったんだな。

人生ってやっぱり地味なものだと思う、でも

暖かいかも知れない。

趣味で油絵なんかを描けば いいと言われたよ。

その頃は 精神病のようになっていて

階段を駆け下りることが 出来なくなってしまったんだ。

でも夢みたいなことを考えなく なってから 少ないけど

収入が安定していったんだ。

たら子は すっかり もぬけの皮みたいになっちゃったんだ。

でも 少しずつでも 収入が入ってくると

精神的に安定し始めたんだ。

仕事をしながら たまに油絵なんかが

売れて こづかいになればいいとも 思ったりしたよ。

たら子は 誰でも 男が持っている夢に目覚めたよ。

可愛いお嫁さんが 欲しい。

という。

しかし 客観的に考えて

それは だいそれた夢だったんだ。

でも たら子は婚活モードに入っていた。

手編みのセーターをしている女の子が

いれば この女性は優しいに違いないと 思い

エレベーターの中で告白したりした。

もう 狂っているとしか 言えないよね。

きっと 女の子はこわいと思ったに違いないよね。

まったく身の程もわきまえないことばかりしていたよ。

そこにある女性が現れたんだよ。

本質的には片思いで終わったんだけど。

饅頭屋の女の子だったんだ。

容姿は背がすらりとしていて

管野美保に似ていたんだ。

ある日 お饅頭のお釣りの入った袋を

たら子のそばに置いて これを見ていて

もらえますか？

言われたんだ。

たら子は結婚の最期の機会だったから

この女性と結婚することに勝手に決めてしまったんだ。

そして たら子はストーカーになってしまったんだ。

しかし 結局 それは はかない夢だったんだよ。

わたし 婚約者がいます。

という手紙が来たんだ。

たら子は現実に引き戻されてしまったんだ。

何か うまい方法は ないか。可愛いお嫁さんを手に入れる方法は。

そして 考えついたのが カメラマンになるという方法だったんだ。

低い給料ながら 収入が安定してくると たら子の

持っている 山っ気がもぞもぞと 頭を上げて

来たんだな。

展覧会に油絵を出しても 落ちてばかりいるし、

画廊にも 相手にされないの で 少し変わったことをしなければ

ならないと思ったんだな。

それで看板みたいなものを作って 外に出して

撮影することにしたんだ。

大金持ちの子供の看板も 作ったんだな。

カメラはキャノンのEOS100QD

にシグマの標準レンズをつけたものだったよ。

カメラが趣味という人間なら 使わないよ。

家庭用カメラだな。

キャノンならEOS1

ニコンならF4

を カメラ好きは使うんだな。

それでも6万はしたな。それに三脚をふたつ

看板を立てるもの。カメラを固定するもの。

とにかく うれしかったんだな。無知だったから

やる気だけは満々だったんだな。

それで いろいろなところで写真を撮ったんだな。

ちょうど その頃 饅頭屋の女のストーカーになってしまっていたんだな。

しかし あえなく撃沈。

どうすればいいか？

たら子でも女の子をゲットするためには。

それが カメラマンになるということだったんだな。

看板の写真撮影で道具は手に入れていたので

カメラを口実にすれば 女の子に近づけたんだな。

現実の世界では 女に相手されない たら子でも

カメラを持っていると イベントコンパニオンの

お姉さんたちは 微笑んでくれたんだな。

もしかしたら たら子をプロのカメラマンと勘違いしている節も

あったんだな。

撃沈された たら子を助けてくれたんだな。

人形を持たせれば いいと教えてくれたのは

いつかと言えば

たら子が写真を撮っていたら 視線を感じたんだな。

何か おもしろいことを しているじゃないという顔をしている クラリオン

のお姉さんがいたんだな。

そのお姉さんに 人形を持ってもらって あとで

フィルムが出来ているのを見たら

良かったんだな。

これで たら子はこの方法をとることにしたんだな。

人生どんづまりとなった たら子は

女に目覚めてしまったんだな。

このどんづまり状態を脱するべく

自作の看板を野外で撮影して

それが作品として認められるという一縷

の望みに かけていた。

だいたいヌード写真集から

人物だけを取り出して

描いていたんだけど

現実のモデルを欲しくなったんだな。

顔だけだよ。

モデルを捜し始めたんだな。

しかし このキュパクラのスカウトのような

仕事は たら子には大変だったんだな。

相当 緊張を強いられたんだな。

道ばたで知らない女に声をかけて

ことわられたりしたんだな。

まず 最初に身近なところから

見た目が良くて この話に

のって来そうな 女に目星をつけたんだな。

饅頭屋の女への失恋のショックから

立ち直りたいと 思ったんだな。

タラ子が 次に目をつけたのは

八百屋の女だったんだな。

顔が ちょっと けばくて

相当 敷居が低そうだったんだな。

八百屋の女に お手紙を書いたんだな。

たら子は 芸術家で身をたてようとして

その方面では かなり いいところまで

行っている。

写真家を目指しているが モデルがない。

あなたは 好感度高そうだ。

わたしに 協力してくれないか。

電話番号まで 書いておいたんだな。

二、三日後に電話が 来たんだな。

「カメラとか やっているんですか？」

モデルを やってもいいけど、

わたし つき合っている人がいるんですけど」

たら子は なぜか 断ってしまったんだな。

断ったタラ子が 何を考えていたのか。

八百屋の女が つき合っている人が

いるんですけど。

と言った 心理は 今になっても よく

わからないんだな。

タラ子は外でも モデルを捜すようになったんだな。

銀座の方のある施設へ行き

案内嬢に

写真を撮らせてください。

と言って

写真を撮った あとで

モデルを やってください。

と頼んだときは

即 断られ 身も蓋もない感じだったんだな。

モデルに なってもらう ところまでは

行かないけど

写真をその場で撮らせてもらうことは

五人に一人ぐらいまでは成功出来たんだったな。

かなり 可愛い子の写真も撮れたんだったんだな。

その頃はまだ モーターショーとか 行って

むやみやたらに 写真を撮るといふ 知恵は浮かばなかったんだな。

ある場所の案内嬢だったんだな。

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

その女の顔の部分だけを使わせて 貰って

看板を作ったのが これだな。

あとで この女の子がCDデビューしたという

話を聞いたんだな。

きっと 芸能界指向のある女だったんだな。

それで タラ子のことを本物のプロカメラマン

だと思って 自分の写真が雑誌か何かに

載ることを考えていたかも知れないんだな。

そう 見られていたのかも知れないと

今になって 思うタラ子なんだな。

CANONのEOS100QDという

フィルムカメラにシグマの

35-70ミリの標準ズームをつけた

装備で最初は撮影していたんだな。

キャノンの純正レンズをつけてあるのより

安かったので 買ったんだな。

このカメラはサイレント機能と言って

普通のカメラより動作音が小さかったんだな。

中級カメラで

EOS1などを本当のカメラ好きは使うんだな。

でも このカメラを買ったときは

タラ子は本当にうれしかったんだな。

AEB機能なんていう 露出が三段階

ずれて三コマとれる機能もはじめて

知ったんだよ。

でも 何年か前に中古カメラ屋に

売ったんだな。

キャノンを買ったのは むかし 初めて

家で買ったのが キャノンの

EX-EEというレンズの前玉が交換できる

一眼レフカメラだったんだよ。

それでキャノンに愛着があったんだからなんだな。

純正レンズではなかったけど

タラ子は満足だったな。

写りとかは よくわからなかったな。

お姉さんを撮ると 毛穴まで写ったな。

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

タラ子の写真は お姉さんに人形を持たせて

シャッターをパチパチ押すだけだったから

構図も何もなく モデルのお姉さんが

魅力的か どうか命だったな。

1995年のモーターショーで お姉さんに

たまたま 人形を持ってもらったら

結果が良かったので

次のモーターショーに タラ子は期待を

かけていたな。モーターショーは隔年ごとに

開催されるので 次は1997年に

行われるはずだったな。

それで 人形の数や種類も

増やす予定だったな。

タラ子は 写真家への道にかけていたのだったな。

無知だから やる気だけは 満々だったな。

そして 女に目覚めていたので

いろいろなイベントや撮影会にも よく 行ったな。

低い所得だったけど 大部 それにつき込んでいったな。

いい写真を撮りたいという 高尚な理想と

あわよくば この女とつき合えたらという

低次元の感情が頭の中で

ごちゃごちゃと ミックスされていたな。

性欲もだいぶ 高まっていたので

ヌード撮影会にも よく 行ったな。

小室友梨という有名なAV女優も撮影したことがあったな。

世の中にはヌード撮影会といものがあるのだよ。

いい女を見つけられるか

どうか

勝負だったんだな。

タラ子の写真は人形を持って

もらって シャッターを押すだけの写真

だったから

構図なんかはあまり関係がなかったんだな。

バリエーションとしては 持ってもらう人形の

種類を増やすことだったんだな。

それで 今までは ベニヤ板に絵を描いた

人形だけだったんだけど

紙粘土で人形を作って

その人形というのも 手帳にメモをとっている

お地蔵様

フラッシュを炊いて写真を撮っているお地蔵さまというのを

作ったんだな。

それが最初のぴっかりくんだったんだな。

ラジコン飛行機のマーカーといって

飛行中に信号灯になるものを利用したんだな。

いい女は いっぱい いたな。

外見が美しかったり 可愛かったりするだけでなく

中身に潤いのある女が

いっぱいいたな。

写真ぐらいは 撮らせてくれたな。

1997年のモーターショーには 開催期間中に

何度も幕張メッセまで 行ったな。

写真を撮ったあとで 開催期間中が

長かったので プリントしてあげたりしたな。

フィルム30本ぐらいは 使ったな。

ふたり一緒に写っているのに

都合が悪くて一枚しかあげられなかったりもしたな。

試行錯誤の毎日だったな。

ただ 悩みの種だったのは

きれいな女の子に人形を持って

もらってシャッターを押すだけの作業で

別にタラ子がシャッターを押さなくても

同じ写真が撮れるというのではないか

ということだったな。

写真自体も何となく大人しい感じが

したな。

それで1997年にためした発光する

ストロボを持って もらうという試みを

始めたな。

最初は市販の補助光ストロボを買ってきて

中身をそのまま卵型のアクリル球の中に入れて

撮影してみたけど 明るすぎて

お姉さんの顔が白く飛んでしまったんだな。

モーターショーとかでも 写真を撮らせて

もらっていたんだけど 地方博なんかにも よく行っていたな。

地方博には ミス何とか女王とか 言う女が よく来ていたな。

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

最初のうちは看板みたいなものを 持って

貰って 写真を撮っていたな。

そのミスたちが生まれ故郷に帰ったとき

どんな生活をしているか 興味があったな、

写真のテーマとして ひとりのミスを追って

生活場面まで撮影したら おもしろいかも知れなかったな。

郵便局なんかで働いているとグッドだな。

でも 写真を撮ったことのあるミスがテレビのドキュメンタリーに

出ているのを見たことがあるな。

旅館の若女将になっていたな。

たらこは 写真撮らせてください。

人形を持ってください。

と言って 間髪を入れず

人形を持って もらって 三、四枚

続けざまにシャッターを 押すだけだから

ひとりの女性を撮影するの 二分もあれば

充分なんだな。

もちろん 撮影しても おこらなそうな

女を選ぶんだな。

きっと一瞬のことで

いかがわしい男に 写真を撮られたと

撮られた方はあまり覚えていないかも知れないんだな。

ダルビッシュたら子の漫画

ダルビッシュたら子の漫画

このミスことは よく覚えているな。

ここに 写っていない うしろに関係しているな。

地方博というのは 地方の物産品なんていうのも

売っているな。

ここは沖縄のブースでうしろの方で

黒糖なんかを売っていたな。

ちょうど 地方博の閉店時間がぎりぎりで

このミスはたすきを はずそうとしていたところだったな。

タラ子が 写真を撮ろうとすると 躊躇した顔つきになったな。

閉場の時間だったからだな。

すると うしろの方で

撮ってもらえ

という声が聞こえたな。

うしろの方で 物を売っている 熊みたいな

ひげ面の親父が声をかけたんだな。

するとミスは後ろの方を振り向いたんだな。

親父の声にも 振り向いたミスの顔にも

何とも言えない 愛情のようなものを タラ子は感じたんだな。

タラ子はこの親父とミスは親子に違いないと 勝手に

思いこんだんだな。

それで考えられるのが

親父が娘がミスに選ばれたのが うれしくて

インチキカメラマンのたら子が撮った

写真が新聞に載ると思った。

もう ひとつは 本当は大事な娘が

写真に撮られるのはいやだったが

照れ隠しで

撮ってもらえよ。

と言ったか。

今だに 謎だな。

タラ子は変なものを持たせて

写真を撮っていたからな。

ブログ画像一覧を見る

このブログの読者になる (チェック)

<< 前ページ 最新 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 最初 次ページ >>

2011-04-04 17:04:35

ぴっかりくん ぴっかりちゃん 029

テーマ：写真展、写真集への夢

たら子は相変わらず

低空飛行を続けていたんだな。

全く 声名もあがらず

展示会があると 変な人形を

持って うろうろしている

いかがわしい偽カメラマンを

続けていたんだな。

でも たら子は 運命のようなものを

感じていたんだな。

何をやっても どんずまり状態で

うまく いかなかったんだな。

写真では もしかしたら

うまく行くのでは ないか、
と 思ったんだな。
全く 何をやっても かみ合わない
たら子だったんだけど
写真と相性が いいんじゃないかと
思ったんだな。

ダルビッシュたら子の漫画

はじめて お金が貰えたんだな。
三万円という 賞金が貰えたんだ。
それが 写真と 相性がいいんじゃないかと
思った 原因だったんだな。
写真をはじめて 最初の頃に
やっていた看板を風景の中に 置いて
写真を撮るといふ写真をアマチュアカメラマンを
対象にしたコンテストに応募したんだな。
露出なんかも いい加減で 構図なんかも
あんまり 考えない写真だったんだけど
アイデアが 買われたのか
準賞というのを 貰ったんだな。
賞を 取ったのは 生まれて初めてだったな。
プロへの道というには 何も関係ない賞だったな。
アマチュアカメラマンへのカメラを買ってくれて
ありがとう。フィルムを消費して くれて
ありがとう。
という賞だったな。

ミノルタが主催している
篠山紀信賞というものだったな。

ダルビッシュたら子の漫画

しかし たら子は この受賞の
裏事情がぼんやりと わかるんだな。
たら子は 漫画なんかも描いていたんだな。
売り込み歴なんかが 長いから
一般人には 知られていないけど
一部のマスコミの人間には 少しだけ
知られていたんだな。
その あまり人の目に触れない漫画の中で
篠山紀信氏をモデルにした赤ちゃんが出てくる
漫画があったんだな。
もしかしたら

ダルビッシュたら子の漫画

篠山紀信氏はその漫画を見ていたのかも
知れないんだな。
それで 篠山紀信氏はたら子に 好印象を
持っていたかも知れないんだな。
篠山紀信氏はたら子に希望を与えてくれたんだな。
三万円と賞状と篠山紀信氏が取った
ヌードのモノクロ写真が入っていたんだな。
こういうことで決まったとしても
プロ対象の賞じゃないから 許されるのだな。

もちろん たら子の写真にもアイデアというものが
あったとは 思うんだな。

しかし 生まれて初めて賞というものを
貰ったんだな。

たら子の胸には むくむくと
希望がわき起こって きたんだな。

それが 写真を初めてから数年後にやって来たんだな。

そして とにかく たら子は写真家への道にかけたんだな。
カメラを持って 孤独だったが 喜びに満ちあふれていたんだな。

でも 本当は孤独では なかったんだな。

ファインダーの向こうに写った お姉さんと妄想の中で
恋人になっていたんだな。

たら子は危ない状態だったんだな。

妄想と現実のふたつの世界で生きていたんだな。

現実の中では死人みたいだったが 妄想の中では
桃色な生活を送っていたんだな。

自分で作った看板を撮影するというやり方、お姉さんに
人形を持ってもらうというやり方、
それでは ネタが尽きて来たんだな。

それに あまり社会的な広がりのあるやり方でもなかったし 誰も興味を持たないという 怖れ
があったな。

それで テレビに出ているような人を撮ろうと思ったんだな。

しかし いきなりテレビ局へ行ってもテレビ局の建物の中では 人気芸人なんか 撮影させてく
れないと思ったな。それなりの交渉力や時間や労力があれば別だと思っただけど。

とにかく たら子は無知だったけど やる気だけは 満々だったから とにかくテレビ局へ行っ
てみることにしたんだな。

朝、テレビをひねって見ると 朝のニュース番組の中で
一般人がぞろぞろと 映っていたな。

そこに紛れ込めるんではないかと たら子は思ったんだな。

日テレのズームイン朝という番組だったな。

交通の便もたら子には ちょうど良かったな。

朝早く市ヶ谷の日テレへ 行って見ると

案の定 日テレ前の広場には 暇をもてあましている高校生みたいなのが うじゃうじゃしていたな。

ちょうど 学校が休みみたいだったな。

テレビで見ているアナウンサーなんか すぐそばで見えたな。

信じられないことに 放送の邪魔さえしなければ 撮影し放題じゃないか。

それに 汗臭い高校生も うじゃうじゃしているし、

それに 放送というのは 本番とリハーサル 打ち合わせというのが あって 本番以外では ほとんど 規制が かかっていなかったな。

もちろん たら子が何を撮影しに来たかと言えば女子アナだったんだな。

ダルビッシュたら子の漫画

テレビ局のテレビカメラから少し離れたところから

テレビと同じアングルで撮影出来るじゃないか。

たら子の撮影機材は 前に言った キヤノンのEOS100QDという中級機に明るさの足りない望遠レンズ、

それに ずっと 昔に自分で買ったリコーのXR500という一眼レフに中古で買った あまり明るさのないレンズだったんだな。

女子アナは天気予報を担当していたな。

まだ 入社まもない女らしかったな。

古株でない女子アナには天気予報を読ませていたみたいだったな。

ひげ面の山男みたいなプロデューサーかディレクターがたら子はよくわからなかったけど、その男がべたべたと この女子アナにへばりついていて 依怙贖をしていたな。

古市幸子とか言ったな。

とにかく いいネタをたら子は見つけたな。

ここで ただ撮影するだけでなく フォローをしておくのが たら子の世慣れたところだな。

ビックカメラで買った期限切れの全紙か 半切のとにかく大きい モノクロの印画紙に女子アナの写真を引き伸ばしてアナウンサー室へ送りつけたりしたな。

いかがわしいインチキカメラマンは会話はしたことがなかったけど 何となく信頼関係が成り立

っていったな。

このネタに気をよくした たら子はTBSやフジテレビでも 同じようなことを やったな。
テレビ朝日では天気予報を読んでいる女を撮ろうとしたら 女のディレクターみたいのが両手を
横に広げて 撮影禁止とか 言ったので 成功出来なかったな。

TBSでは島田陽子の旦那というのを見たな。アシスタントディレクターとかに シャドーボクシ
ングなんかを見せていたな。

これで たら子の写真活動の三本柱が揃ったな。

しかし 相変わらず たら子は売れない インチキカメラマンだったな。

しかし1997年頃には たら子的には 画期的な出来事が起こったな。

どん底生活から 低いながら定期的な収入が得られ始めたという話を書いたな。

そして ウィンドーズが出る前のノートパソコンを買った たら子だった。

それは ワープロぐらいしか 使い道がなかったな。

そして 1995年にウィンドーズ95が出たんだな。

そして たら子はNECのCPUの速度が300メガというパソコンを買ったのだな。

これで自分の写真の整理 配布が出来ると たら子の胸は感動で 打ち震えたな。

最初はパソコンのことも よく わからず 再インストールなんかを しょっちゅう やってい
たな。

MOドライブ フィルムスキャナー そして

とうとう たら子はCDRドライブを買ったのだ。

これは たら子的には 歴史的な出来事だったな。

自分の撮った写真を配布出来るという。

CDRドライブには スライドショー作成のソフトが
入っていたな。

たら子は 遠大な野望を抱いていた。

これで 究極のソフトを作ろうという（あくまでも たら子的な はなし）

飛べフェニックス という映画があったな。

砂漠に墜落した飛行機が 修理して砂漠から脱出する話だったな。

その中でけがをして死にそうになった男がラジオを

抱きながら そのラジオから流れてくる歌姫の歌声を 聞きながら 死んで行くという場面があ
ったな。

それが その男の最後の救いだったという。

たら子は そういうものを作りたいと思ったのだな。

全く 女に相手にされなかった たら子がカメラを持ったときだけは そのファインダーの向こ
うの女神に

心を癒されたように。

ためしに スライドショーソフトを使って それを作って見た たら子だった。

自分でも 恥ずかしいが 涙が止まらなかったのだな。

そして それを ばらまき始めた たら子だったのだな。

それをホームページに のせるために

ビデオにも作り替えたな。

その 最初のものが これだったな。

最初は 自分の写真を 多くの人の目に

ふれるようにするには どうすれば いいかと

たら子は考えたんだな。

それで スライドショーのソフトにしてみても

CDRに焼き付けたんだな。

最初はラベルの印刷も何もないものだったんだな。

自動再生でも なかったんだな。

インターネットで教えて貰って

自動再生にもなったものだな。

ラベルの表紙は こんなものだったな。

ダルビッシュたら子の漫画

これを 配り始めたんだな。

悪戦苦闘が 始まるんだな。

たら子はこのCD、中には音楽付きのスライドショー

ずいぶんあとでは

ビデオになるんだけど

いいものだと 思ったから

身近で 配り始めたんだな。

ただで。

しかし 職場でおおっぴらには配れないので

信用出来そうな人間にしか

配らなかつたんだな。

でも エロビデオだと思っていた人間が多かったみたいだな。

外食へ行ったときも その辺に置いていったな。

きっと ゴミ箱に捨てられたに 違いないな。

最初一枚目には 6個ぐらいビデオが
入っていたな。こんなようなものが 入っていたな。

たら子が どん底状態から

起死回生の策に選んだのは

お姉ちゃんの 写真だったんだな。

しかし 究極のソフトを

開発した つもりのたら子だったが

居酒屋の机の下にそれを置いて来ても

誰にも 気づかれない状態だったんだな。

下手をすると ゴミ箱行きに

なってしまうこともあったようだな。

それで たら子は何とか しなければ

ならなかったんだな。

ラジオ局に 配ることにしたんだな。

それは宣伝の意味も あったけど

たら子の「女の子なんだもん」

シリーズを作る意欲にも

つながったんだな。

誰も利用しないものを

作るよりも

誰かが 利用すると 思うものを

作る方が 作るときの意欲が

違うものだな。

夜の九時台から

やっているラジオ番組の

パーソナリティにそれを送ることにしたんだな。

TBSでは小島一慶氏

文化放送では 名前は失礼ながら忘れたけど

劇団の主宰者の人。

ニッポン放送では TMLレポリビューションの

西川貴教氏に送ったな。

そこから 話題が 広がることを

たら子は いやらしくも 期待したな。

とにかく 見てくれる人が いると思うと意欲は持続したな。

居酒屋へ行ったときも 食堂へ 行ったときも

置いて来たな。

新しいのが 出来るたびに

その三人のラジオのパーソナリティーには

送ったな。

そこから たら子の知らない経路で

そのソフトが広がっていたかも知れないな。

とにかく 受け取って くれて ありがとうと

言いたいな。

職場でも あまり おおっぴらではなく

ばらまいていたな。

苦情が 来ない範囲でばらまかなければ

ならなかったな。

裏ビデオと 思っている人間も多かったみたいだな。

危なかったことも あったな。

女にあげたとき

あとで 苦情が来たな。

AVソフトを配っている 奴がいるということで

犯人にされそうに なったが

適当に逃げたな。

女にあげるときは 注意が必要だったな。

喜ばない女もいたな。

相当な数を ばらまいたな。

一番 ばらまいたときは

月に4万ぐらい 使ったな。

50枚ぐらいのCDRが2000円ぐらいだったから

一枚あたり40円ぐらい それにラベルの印刷なんかを考えると

一枚あたり 60円ぐらい 費用がかかったな。

だから月に多いときは $40000 / 60 = \text{約}700$ 枚

という計算になるんだな。

でも そんなに配ったか よく わからなかったな。

でも トータルでは一万枚くらい配っているかも

知れないんだな。

しかし 一向に声名は 挙がらないんだな。

たら子は バカか。

たぶん 300万は使っているな。

自主制作の写真集を出した方が良かったかも 知れないな。

話は相変わらず 小さいな。

たら子としては ぴっかりくんの方法は確立していたので

写真は いくらでも撮れたな。

しかし 一枚の写真としては 弱い感じもしたんだな。

それで音楽ソフトにしたら 完成度が高かったんだな。

この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。

危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる。

迷わず行けよ。行けばわかる

アントニオ猪木

採算は全く とれなかったな。

それでも ほかに 方法が

考えられないから 続けたな。

日本でワールドカップが

開催されたときは

いい機会だと思って

試合会場まで 行って

外国人に配ったりしたな。

負け惜しみばく 聞こえるかも知れないが

採算がとれなくても

続けたい気持ちが たら子にはあったんだな。

よく 学生時代に行っていた定食屋に

ふたたび訪れると うれしいことがあるように

なるべく 続けたかったんだな。

たら子はインチキカメラマンだけではなく、

裏ビデオ配達人にも なったんだな。

相手に興味を持つ

それって愛情のはじまり ニダニダ

.....

それはモーターショーの撮影のときだったな。

たら子は相変わらず すけべ心を

出して どういう写真が 受けるのか

興味津々だったな。

それで 受けるというのは

胸の谷間が 写っている写真というのが

青年雑誌の定番だったな。

モーターショーの撮影に行ったとき

たら子は やる気満々だったから

衣装も そうだし 美乳の女がいたんだな。

いい機会が来たと ほくそえんだな。

胸の谷間が 写せる女がいたんだと思ったな。

どう見ても 大人しそうだし

口下手ぼく見えただな。

それで たら子の定番の

いかがわしい人形を持ってもらって

たら子の 利己心から 胸の谷間が写るように

写真を撮っちゃただな。

すぐ その場を離れたんだな。

出来た写真を見たら やっぱり 胸の谷間が

写っているんだな。

そのモーターショーの閉場したとき

電車に乗ったら たら子の座った

斜め前の方の席に その美乳の女が

座っていたんだな。

すごく 寂しそうだったんだな。

たら子には気づいていないようだったんだな。

もしかしたら この女は 彼氏がないのでは

ないか（たら子の願望）

寂しいと 思っているのではないか

(たら子の妄想は どんどん ふくれていったんだな)

でも 電車のドアが開いて

たら子の目の前にたくさん 人が入って来たんで

その美乳の女も見えなくなったんだな。

たら子は勉強になったな。

男にもてようと思ったら

わたし 寂しいんですオーラを

出せばいいんだな。

カメラは いろいろなものを買ったんだな。

最初は新品なんか 買ってたけど

中古でも 一年は 持つんだな。

それを知ったので 中古なんかを

買うようになったんだな。

手持ちのカメラが

EOSマウントのキャノンのEOS100QD

KマウントのリコーのXR500だったんだな。

それでKマウントのレンズなんかを 買ったな。

Kマウントは結構 レンズが出回っていたな。

Kマウントの望遠レンズ それも明るさのあまりないのを
買ったな。

それを使って 撮影会なんかへ 行って

よく お姉さんを 撮っていたな。

ちょっと思いつくままに使ったことのあるカメラは

ペンタックスのZ1 ,K1000

ミノルタのXR7000,アルファ 5

なんかを 使ったな。

銀座に銀一というカメラ屋があって

そこで カメラのレンタルをするので

95年のモーターショーに備えて

6*4.5 6*7の

中板フィルムのカメラも借りたな。

ペンタックスの645

マミヤのマミヤ7なんかも使ったことがあるな。

ハッセルブラッドも使ったことがあるな。

自分の写真をほかの人に見て貰うために

たら子は

「女の子なんだもん**」

という音楽のついたスライドショーソフトを

作って 配り始めたんだな。

そのあいだも 女の子の撮影には

精出していたんだな。

知り合いに 撮影会情報を

教えてくれる人もいたんだな。

それで レースクィーンが

たくきん 出ている撮影会とか

ストリップショーで

踊り子が撮影させてくれるという

催しにも行ったな。

そのときの踊り子というのが

その頃 何かで人気一番になった女だったな。

そうして ソフトの方もじょじょに出来て来たな。

そして 配り続けて

トータルで300万ぐらい 使ったな。

数万枚は 配ったに違いないな。

最初に目的を 持って 有名になるためなら

その目的の最短距離を考えて

もっと 金の使い方を 考えた方が良かったかも。

でも ほかに いい方法が 考えつかなかったな。

やる気を支えてくれるという プラスの面もあったな。

ここで たら子は またどんづまり感に襲われたのだな。

だいたいビデオを40個ぐらいは 作ったな。

全部じゃないけど

たら子の作ったビデオ

ここを押してくれると 出てくるな。

2002年の頃だな。

そして たら子は ノートパソコンも購入するのだな。

たら子は インターネットに 初めて出会ったんだな。

携帯電話を買って それをノートパソコンにつなぐと

インターネットに 接続出来たんだな。

そこで

たら子は

一敗地にまみれた 夢にふたたび

挑戦してみるんだな。

インターネットで

いちごBBS

という掲示板を 見つけたんだな。

そこに 自分の小説を 載せて みようと

思ったんだな。

モーニング娘が 人気だったな。

それで モーニング娘を 主人公にした

妄想小説を 載せてみたんだな。

ここで 人気爆発なんて ことになったら

うれしいんだけど 今一 だめなんだったな。

いつもの パターンで ごくごく少数の業界人の

口に挙がるという。

ここで また たら子はどうするか 悩んだんだな。

そして たら子は ついにつぎの段階に

進むことにしたんだな。

自分のホームページを作るという。

そうすれば 自分の撮った 写真を

常時 載せられると 思ったんだな。

自分の家には まだインターネット回線は

曳かれていなかったんだな。

自転車で15分くらいのところに

インターネット喫茶店が あったんだな。

家のパソコンで ホームページの中身を

作って 漫画喫茶店のパソコンから

プロバイダーに送ったんだな。

ここで また たら子は 白昼夢のような 夢を

見たんだな。

これで 撮った写真が 多くの人に見て 貰って

有名になるかも 知れないという。

とにかく たら子は 有名ということに

こだわっていたんだな。

ごくごく 少数の業界人に 知られているが

一般人には 全く 知られていないという

ことが たら子は 不満だったんだな。

そして 漫画喫茶のパソコンで

アクセス数のランクなんかを見たんだな。

そこに あったのが

侍魂 だったんだな。

一日あたり 20万くらいの アクセス数があるという

ことが 書いてあったな。

たら子は 自分のホームページが

侍魂みたいに なったらなあ

と 夢想したな。 侍魂は たら子の憧れだったな。

2004年の はじまり頃に 自分の ホームページを

作ったな。

それが

ソニンたんのふともも

というタイトルだったな。

しかし あやしいホームページと

見られていたな。

アクセス数のカウンターは

ついていないので わからないけど

一日に10ぐらいしか 人が来ないみたいだつたな。

それで いろいろな仕事を 行ったが

今一だったな。

ある日 誰かが 大変なことになっていると 言ったんだな。

しかし 噂の段階なんだが

今から数年前に

たら子の作ったビデオなんかを

移植した 外国人がいて

それを SNSかなんか

で広めてくれて

世界規模で たら子の名前が

広がっているという噂があるんだな。

本当でしょうか？

いいえ こだまです。

ここまで読んでくださり ありがとう

ありがとう ありがとう